

ことしも 民生委員さんの紹介 よろしく

民生委員担当区域

部 落	氏 名	担 当 区
滝 坂	藤井 富寿	滝坂、一の瀬
縦ノ木	増田 琢雄	中畑、縦ノ木、杉山
宗 頭	行村 芳江	追分、宗頭
兔 渡 谷	森清 照雄	麓、兔渡谷
上中小野	篠原 管子	上中小野
下中小野	兼重 香	下中小野、辻並
市	古屋 正資	市
中 村	熊野 正	中村、湯免、大竹、正楽寺
土 手	岡田 金祐	土手、久原、広田
津 雲	藤田 孝夫	生島、津雲、飯井
野 波 瀬	池信 昌子	野波瀬西
"	松野 麗子	野波瀬東
豊 原	井畑チサト	上豊原、二条窪
"	笹見 富代	下豊原、向山、上東方
小 島	長峯不可止	小島、下東方
浅 田	和 伊津子	浅田、殿村新開、向開作
沢 江	宮田 米雄	沢江
上 ゲ	石村 利一	上ゲ、平野



野波瀬 松野麗子氏

昨年十一月三十日で任期満了となった民生委員さんが十二月一日を期して改選されました。その結果、左表の十八名の方が選任され、それぞれの担当地域が決まりました。中でも野波瀬在住の松野麗子氏は、新しく選任され、その温厚な人柄で本町の福祉行政に骨を折って頂くことになりました。



またない。しかし決め手が見い出せず明治三十五年になっても解決しなかった。そのとき偶々、昔、藩主毛利輝元公が農民のために、薪、牛馬の草、田畑の堆肥にするためなら山野への入会自由とする旨を約した古文書がみつかった。これによって採草地は集落共有林野と町有林野として払下げが行わ

れたということである。それから大正、昭和と時代は移り、化学肥料などが作られるようになり、農作業も変化することになり、下木刈りも年々減少しはじめて、植林が行われはじめたという。数年前まで採草地が残されていた山もあったが今は見られない。今日では牛は畜産専門の農家で

飼育される様になり、配合飼料が使われているが、牛飼育の基本は金のかからない、草を大量に与えるべきではないかと、昔ばなしを聞いて考えを新にしたものであります。(以上浅田の河原松蔵さんのお話しを主体にしてまとめさせて頂きました。)

文化財専門委員 田村 守

病持つ身に特効にありときき小鉢のアロエ借しみては摘む

久行 コト

草取りもなしえず姑の病む日々を庭に芽ぶきしひとつ球根大根の干されしままに日々過ぎて師走の風の厳しさにあう

立間 雅子

マシユマロの頬にほのかな笑みうかべ母のかいなにみどり児ねむる

岡 松子

元朝の空に向きつつ啼く鶴の嘴より白き息立ち上る

伊藤シズエ

秋晴れの良き日続きて軒下に吊せる柿の銚色を帯ぶ

伊藤シズエ

あまた咲く山辺の枇杷に風たちて雪ひらのごと花殻こぼるる

訪なえる友の門辺に山茶花の紅明るし柔ら陽の中

臼井 麻子

職辞してうら和き過ごすわが庭に古りし臘梅初春告ぐる

教え子の告ぐる言の葉来し方を思いつつ読みゆく年の初めに

石村 栄助

やはらかに日差せる路の緩む歩に犬は息せき吾をうながす

柚子の香の漂ひくるに書をおきてはやも夕づく窓を見てをり

平川 育子

宿題か風呂かと急かれ孫は顔を覗かせやがて炬燵に寝ねぬ

水墨とゲートボールにささやかな大正っ子の追う新年の夢

集い終え自転車押せばオリオンも牙えざえとして満天の星の命に限りあるものを

安藤 芳江

ひむがしの天つみ空ゆ茜さしうまし新年光まשיきぬ

久方の真陽うるはしきこのあした万木千草かがやきわたる

田中 信江

初正月迎えし孫の笑い声明るくみちて家族層蘇くむ

床の間に活けたる松も生きいきと年の始めの明るさは充つ

堀田 澄江

悲恋の賦流るる稚葉の家並み低く夕をおそき月登りきぬ

山深く潜み生きつぎし里人ら平家の裔と伝えて今も

平川 喜敬

海へだつ港に灯る彩りの明りは波に揺らぎ寄りくる

ものみな息ひそめて年迎う霜凍る夜の明けのしじまに

岡林 鎮雄

蜺探る人らも去りて河原の枯葦群にこもる夕風

葦沼に憩へる鴨ら折々は鳴きてゑあぐる寒き日ぐれを

